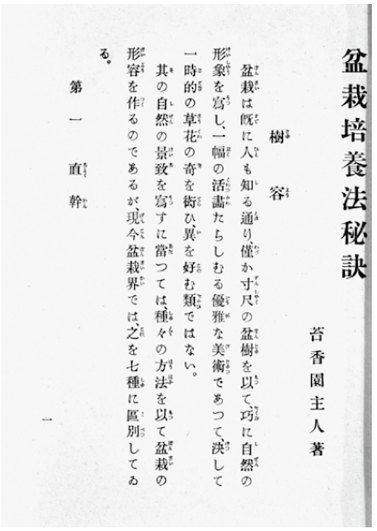
6月

【収蔵品紹介】
木部米吉著『盆栽培養法秘訣』（苔香園発行　明治44年）

『盆栽培養法秘訣』（以下、本書）は、『盆栽培養法』（以下、前書）の8年後の明治44年（1911年）に、木部米吉が刊行した盆栽の培養書です。「盆栽培養の事たる頗る多岐に亘り、之を詳説するは一朝夕の業に非らされば、更に他日を期して完全なるものを公にせんとす」と前書で述べており、意欲を示していた続刊の発行が叶ったということです。内容については、本書の自序で、「前者の欠を補ひ謬を正し、更に挿画十数葉を加へて新に『盆栽培養法秘訣』と題し上梓す」と述べているように、前書を基にしつつ、内容の追記や項目の整理をしています。なお、前書について、「幸にして江湖の歓迎を博し版を重ぬること数次」と本書の自序にあり、重版になるほど好評で、需要の見込みがあったことも本書発行の一助になったと考えられます。

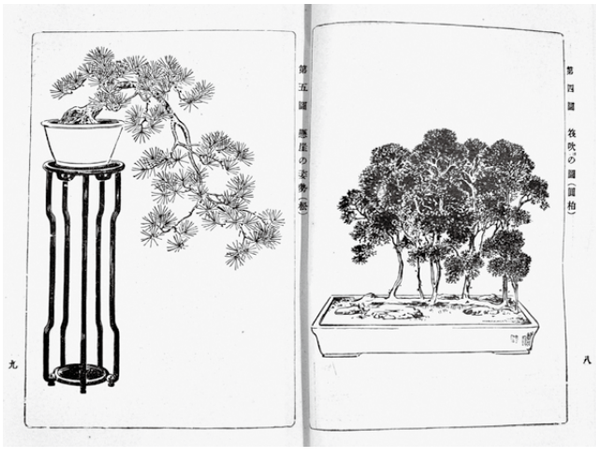

盆栽培養法秘訣
苔香園主人著
樹容
盆栽は既に人も知る通り僅か寸尺の盆樹を以て巧に自然の形象を寫し、一幅の活畫たらしむる優雅な美術であつて決して一時的の草花の奇を衒ひ異を好む類ではない。
其の自然の景致を寫すに當つては種々の方法を以て盆栽の形容を作るのであるが現今盆栽界では之を七種に區別してゐる。
第一　直幹
一

本書と前書で注目する相違点は、①目次の順番と、②「苔の事」がなくなり「重（おも）なる盆栽の培養」と「培養と湿度」の項目が加わったことです。

①目次の順番について、項目の名称こそ違いますが、両書とも樹形、用土、肥料、潅水から始まっています。目次つまり見出しとその順番は、著者が重きを置いた事項を反映している可能性が高いです。木部米吉が重要視していたものは、両書に共通して目次の最初にある樹形、用土、肥料、潅水であることがうかがえます。特に、両書の本文冒頭では、盆栽は「美術」や「活画」であると述べていることからして、この点が最も主張したい事柄であると言えます。続く項目では順序の入れ替えや、前書では小項目であった内容が大項目になっていたり、またその逆になっていたりと、内容の整理がなされています。前書では5番目に「実生物の採取」があり、前後の内容との関連は薄いです。一方、本書の実生についての項目は、取木や挿芽（接木）と並んでいて、まとまりがある印象です。本書は、前書よりも内容が整理され、まとめられた内容であると言えます。

②「苔の事」がなくなった点については、前書で記載済みであるため削ったとも考えられますが、そもそも記述の必要性を感じなかったためと思われます。前書で「苔の事」について、「成るべく之を用ひぬが可（よ）い」とか、「陳列の際に限りて用ゆれは足りる」として、否定的な内容であったことから想像されます。

一方、本書で追加された「重（おも）なる盆栽の培養」は、樹種ごとに培養方法を説明するものです。これは、本書以前の盆栽関連書籍のほとんどが記載していたものです。ただし、その内容は異なります。松柏や花物、寒樹、実物、葉物の代表を1点ずつ紹介し、その冒頭には品種や性質、見どころを説明している点で、本書の独自性があります。また、「松は盆栽中の主木であつて、最も広く愛玩されているもの」とか、「石榴（ざくろ）は目下、流行盆栽界の寵児で、四季を通じて観賞することが出来るので、益々流行を極めている」などと記述されており、単なる木部米吉の主観だけでなく、当時流行していた盆栽についてもうかがい知ることができる点でも興味深いです。



樹容　懸崖の姿勢（松）　筏吹の圖（圓柏）

目次一覧

盆栽培養法	盆栽培養法秘訣
盆栽の種別	樹容
培養土と其用法	植土
肥料と其用法	肥料
潅水	潅水
実生物の採取	置場所
植替	植替
枝葉手入	仕立方
苔の事	除虫
根締石の事	実生
盆栽保存の事	壓条（とりき）
石附の事	挿芽
針金を掛くること並に捻り方	針金をかける事
害虫の事	重なる盆栽の培養
差木、接木取木の事	培養と温度

また、本書の最後に加えられた「培養と湿度」からは、本書が日本各地に普及していたことがうかがえます。本項目では、「本書の培養法には、従来の例に慣（なら）ひ、東京を標準とし時令に依つて季節を述べた」と、注意書きから始まります。本書も含め、いくつかの盆栽関係の培養書では、植え替えの時期として彼岸を挙げています。しかし、「是れは土地に依つて温度が違ふ、同じ彼岸でも青森と鹿児島では大なる相違があらう（略）時令に依らず温度に依つて季節を定ある方が安全であるから、東京を中心とした各月に温度を記して置かう、遠隔の人々は是に依つて其季節を選び給はゞ、大過無きを得るであらう」と、地域による相違に言及し、日本各地の読者を想定して内容が書かれているのは本書が初めてです。そして、文末には東京の各月の最高気温と最低気温を表記しています。東京を基準とした表記ではありますが、温度という一般化が可能な基準を示しており、汎用性があります。裏を返せば、木部米吉の書籍は日本各地で読まれていたということであり、盆栽が日本各地で愛好されていたということになります。本書以前の盆栽関連書籍も日本各地で読まれていた可能性を否定できませんが、ここまで各地の読者に配慮した記述は本書が初めてという点に画期性があります。

針金掛けによる整姿成形を案出するなど、盆栽界に大きな影響を与えた人物として木部米吉は評価されていますが、盆栽の培養書を通じて盆栽の技術論を体系化し、その内容が日本中に広まっていたことが本書からうかがえます。

（当館主事　立石見雪）